

1. 最低賃金:75US\$ で決着

この数週間、GMAC、組合、そして政府との最低賃金を巡る攻防は一進一退を極めた。そして3/21、「縫製業及び靴製造への最低賃金が月75ドルへと実質14ドルの上昇で決着を迎えた」、と社会問題相が発表した。また発表資料には、当初、政府は73ドルへの上昇を認可したものの、フンセン首相が介入し、担当官に更に2ドルの上昇を指示し75ドルへと改訂された、さらに(手当は既に支払われているが表記上)5ドルの保険手当も加算されることになり 80ドルとした、と記されている。社会問題相の Vong Sovann 氏によると、首相はこの“2ドル”に固執していたのだと言う。

この結論が出るまで、GMAC は70ドルをベースとし、いくつかの組合は100ドルを主張すると言った状況が続いた。そして最後のミーティングが行われた際、主たる6つの組合は73ドルで同意した。GMAC の Ken Loo 氏は、「ミーティングに参加した全10の組合が同意したわけではなかった」、と言う話を明かした。また Loo 氏は、「この決定はたった今聞いたばかりである為、詳細を確認できるまでコメントは差し控える」、と言い残した。

一方で Cambodian Confederation of Union の Rong Chhun 氏は100ドルを主張していた立場であり、「この告知は既に聞きました。しかし私は全く歓迎していません。この上昇は労働者にとっては少な過ぎます」と述べた。

この新しい賃金への移行は5月1日より実施される。

2. 2012年度、縫製企業のカンボジア進出急増

カンボジア政府は昨年、103 の工場を認可し、6.6 億ドルの投資を迎え入れた。2011 年は 52 の工場、2.3 億ドルだったのに対し、大きな上昇を描いた。2012 年のカンボジア開発委員会の投資に関するデータによると、82 の縫製工場が 4.99 億ドル、13 の靴工場が 1.16 億ドル、2つの靴下の工場は\$2,500 万、4つの布地工場は\$900 万、そして2つの手袋工場は\$1,000 万の資本投資となったと示している。2011 年では、45 の縫製工場が\$2.05 億、7つの靴の工場へは\$2,500 万の投資となっていた。

GMAC の Len Loo 氏は、「隣国の最低賃金は依然としてカンボジアより高い為、それがカンボジアへ工場を移す理由にもなっている。中国からが最も多くなっており、その理由として中国の最低賃金の上昇が考えられる。カンボジアは賃金が安い上に、マーケットへのアクセス面でも魅力的である。しかしカンボジアでこれほどまでのストライキが起こっていないければ、更なる投資、工場移転がカンボジアに加速していたと考えられ、また現に多くのアプローチを受けていた」、と話している。

3. ストライキ関連情報

①3/01、Kingsland 社の問題で、Walmart と H&M が交渉に参加

引き続き80人以上の Kingsland 社の元従業員がハンガーストライキを継続している。参加者のひとり、労働者 Or Sokong 氏は、「私たちは何も食べておりません。全てはこの問題を解決する為です。今日、ストライキ代表者が Walmart、H&M の代表と会談の場を設け、\$200,000 以上にのぼる給与問題について解決策を模索することになるだろう」、話している。その会合には、労働者、労働者の権利団体、H&M、H&M のサプライヤー New Archid、Walmart、Walmart のサプライヤーの Saramax が参加する予定である。H&M のスポークスマンは本件に対してのコメントを拒否したが、「本件の優先度は高い」とだけ話した。



②3/06、労働者支援グループの組合員が活動中に逮捕

警察は労働者の権利を守る団体である Clean Clothes Campaign(CCC)(主に欧州の 15 カ国で構成)のメンバー5人を拘束したと報じた。そのメンバーは Kandal 州 E 縫製工場の外にて活動を行っていた。Kandal 州移民警察の Neuv Sakhan 氏によると、4人の女性と1人の男性(ノルウェー、ベルギー、オーストリア人)を拘束したと話している。Sakhan 氏は「彼らは友達に会う為に来ていると言っているが、その書類もなければ(コピーではない)パスポートも持っていなかった」と話している。

CCC は、労働組合の一つ C.CAWDU と共にカンボジアの労働環境に対して危機感を示し、賃金の問題、労働者の権利について労働者の権利を守る団体、組合とプノンペンにて会談を行っていた。C.CAWDU の Buth Bunchhean 氏に

よると、CCC の活動家達は E 縫製工場に3時半に到着し、その2時間後に警察に拘束された。また Buth 氏によると「彼らは労働者を助ける為に来た。またパスポートのコピーを持っていたが、それは受け付けられなかった。そして彼らは Svay Rolum 警察署に連れていかれ、彼らの友人の1人が彼らのパスポートを持って来た」と話した。しかし結局彼らは、警察署の独房にて一夜を明かす事になった。

③3/13、2 工場で賃金を巡るストライキ発生

- 3/13、Takeo 州にある E Cheng Cambodia Cooperation 工場では、およそ1000人の労働者が抗議活動を行い、最低賃金を 80 ドルまで引き上げることや労働環境改善を求めるストライキを行なった。このストライキは、組合と雇用主間で月曜日(3月11日)に行われた交渉が失敗に終わったことから発生した。
- 3/13、自由貿易組合の職員 Yann Roth 氏の話によると、Kandal 州で働くおよそ600人ほどの労働者が、アディダスの製品も生産している Sixplus Industry 工場周辺において抗議活動を行っており、最低賃金を61ドルから120ドルに引き上げることや、休暇手当の支給などを要求している。工場に勤める匿名希望の経営側職員は、「工場側は最低賃金を上げることに同意したがそれは71ドルまでとなり、完全に労働者の要求を満たしているわけではないので、労働者達がまた今日にもストライキを行う予定である」と話した。

4. 3/05、和僑会(日本)が経済特区開発へ

3/05、日本のビジネスグループ 和僑会が、Sonatra グループのチェアマン Sorn Sokna 氏との合意書にサインをした。この合意書は、メコン川流域の Prey Veng フェリーターミナルを経済特区として開発させることを約束するものだ。日本人の投資によって、このフェリー乗り場に隣接した場所に来年橋が完成する予定であるため、このフェリーサービスはいらなくなると予想されている。和僑会の Tsutsui Osamu 氏は、中国やベトナムなど他国で活躍しているビジネスマン達の組織するグループを代表して来ている。

Sokna 氏によると、フェリー乗り場として使われているこの地域を開発するという計画は副首相や内務省の Sor Kheng 氏の提案によるものであるようだ。この地域を利用して投資



家達を引きつけ、会社を建設し、Prey Veng に暮らす貧しい層の人々にも雇用を創りだすことが計画の目的である、と考えている。Sonatra グループのチェアマンであり Sokimex 社の前役員である Sokna 氏は、カンボジア金融協会を設立した経験をもち、いくつかのレストランや不動産計画を取り仕切っている人物である。彼は、段階的にこの計画を進めるにあたってすでに10人の日本人投資家と契約を結んでいるが、実際に計画を始動させる前に計25人の投資家を探す予定でいる。今回合意書を結んだ和僑会代表が、組織内のメンバーにこの計画の情報を共有することにより、残りの15人の投資家も集まるはずだと、彼は考えている。「Sor Kheng 氏は、Prey Veng には経済活動が全くなく、そのため人々は仕事を得るために遠くへ出るしかないと考えています」と Sokna 氏は話す。Sokna 氏は、計画に必要な初期投資はおおよそ1000万ドルである、としている。また、Sonatra グループに属する会社が開発者となる予定である。「今朝私がサインしたのは、これによって他の投資家達からもっとお金を募ることができるだろうと考えたからです。カンボジアの経済特区開発に関して協力したい、といってくれる日本の政治団体もあります」と Sokna 氏は話す。この計画のアイデアは内務省の Sor Kheng 氏から来ているものであるため、政府の了承はすでに得ている、Sokna 氏は言う。また、事務書類や計画詳細はいまカンボジア開発評議会において検討中の段階にある、としている。

5. 3/07、鳥インフルエンザへの懸念

Banteay Meanchey にある州立病院では、鳥インフルエンザへ感染したのではといった恐れから計12人が来院していたが、結局彼らは鳥インフルエンザではなく普通の風邪であるとの診断を受けた。

Ly Khlei さんの話によると、先月同州では鶏が何羽か病気で死んでおり、受診に来た患者達はこの出来事を受けて鳥インフルエンザを懸念したものと思われる。また彼の話によると、多くの人々が高熱や咳といった鳥インフルエンザによく似た症状に苦しんでいるようだ。Mongkal Borie Cambodian-Japanese Friendship hospital の院長 Chan Vuthnavuth 氏は、「3/05に42人の患者がH5N1の診断を受けたが、そのうちウイルスに感染している者はひとりもおらず症状も軽かった」、との報告をした。農業局に勤める Heng Bun Hor 氏は、「現地の鶏をサンプルとしてプノンペンに送り、ウイルス

の診断をすることになる」、と話す。

現在、カンボジアではかつてないほど鳥インフルエンザが発生しており、感染した9人のうち8人が、感染して2ヶ月以内に死亡した。Banteay Meanchey 州からはまだ感染者は出ていない。Banteay Meanchey 州保健所の Kao Sopheak 氏は、「この最近の出来事は、鳥インフルエンザへの人々の懸念が蔓延しているためである」、と話している。先週 Kampong Cham 州に住む 35 歳の男性が亡くなったのを受けて、政府はより活発なキャンペーン活動を始めており、テレビでの警告時間を2倍の量に増やしたうえ、ラジオでの放送を午後2回であったのを4回に増やしている。このキャンペーンは、少なくとも4月中旬にあるクメールニューイヤーまでは続く。

6. 3/14、違法薬物使用でレストランのオーナー、客が逮捕

シェムリアップにあるピザレストランとゲストハウスにおいて行われた違法薬物調査により、結果として21人が、3/12に逮捕され、このうち17人はアメリカやフランス、カナダ、ドイツ、オーストラリアといった国々から来ている観光客であった。今回の薬物取り締まりは、3/12の朝にニュージーランド人観光客3人とトゥクトゥクドライバー2人が Svay Dangkum 地区のハッピーピザレストランにて逮捕されたところから始まる。ここは違法薬物の使用や売買が行われているとして告発されているところであった。

シェムリアップの警察署長 Mok Aun 氏は、「ニュージーランド人3人とカンボジア人2人は、ハッピーピザレストラン店内の人前でマリファナを吸っていたのです」と話す。

「マリファナを吸っているところをちょうど警察官が逮捕しました。彼らは薬物使用と薬物売買の容疑で告発されました。彼らは現在、薬物売買の活動に関してシェムリアップの警察から取り調べを受けています。もし彼らが活動を行っていたのだという証拠が見つければ、裁判所へ送られることとなります」と彼は付け加えた。シェムリアップの検察官である Chhun Sophanha 氏は、「レストランのオーナーもまた取り調べのため召喚された」、と話している。ハッピーピザレストランで捕まったカンボジア人のトゥクトゥクドライバーは取り調べのなかで、Sala Kamroeuk 地区にある Villa Anjuna ゲストハウスの名を挙げており、「そこが薬物を求めるドライバー達の中では有名な場所である」、と明らかにした。シェムリアップの警察官 Um Amra 氏は、「ゲストハウスの取り締まりの命令が出され、結局そこでさらに14人の外国人が逮捕された」、と話した。



7. 最近の外資の進出状況など

- 3/21、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、カンボジアでコメのもみ殻によるバイオマス発電事業を開始したと発表。首都プノンペン近郊の農村(タケオ州)の精米所に、もみ殻のガス化・分離システムを導入した発電用の実証棟を新設した。
- 3/25、タイ石油会社(PTT)は、2017年までにミャンマーだけでなく、カンボジアやラオス、フィリピンでもGS展開を進めていく。カンボジアは現在の13カ所から60カ所に、ラオスは20カ所から60カ所に、フィリピンは60カ所から150カ所にそれぞれ増やしていく。

以上